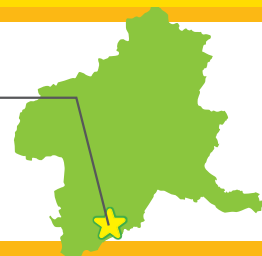


全ての人の夢を乗せ、鯉のぼりは泳ぎ続ける

かたる会

神流町



神流川の上空を気持ちよく泳ぐ800本の鯉のぼり

●活動内容

毎年ゴールデンウィーク期間の前後2週間余り、神流川の上空に山からワイヤーを引いて、大量の鯉のぼりを泳がせる。その光景は、人々を雄大な気持ちにさせてくれる。見物客も初めは少数だったが、噂を聞き住民たちが見学に足を運ぶ。屋台が出始め、神流川でボートに乗る体験会など規模が膨らみ、現在では「鯉のぼり祭り」として、町の一大風物詩となっている。近年では県内外の観光客が大勢足を運んでくるようになった。

現在、掲揚される鯉のぼりは800本に及び、会員だけでは準備等に人手が足りない。40～50代となり仕事が忙しくなった会員は名簿上脱会するが、つながりが切れることはない。そこで、定年退職し、比較的時間が自由なOBが掲揚を手伝う。鯉のぼりを絡ませることなく、綺麗に泳がせる技術は、初期メンバーが生み出した、金具の取り付けに工夫を施す独自のもの。それを知るOBたちが技術や知識を後輩に継承することで、会のメンバーの技術は向上していく。

●事業を始めたきっかけ

会の発足は昭和46年。廃品回収から始まり、多岐にわたって慈善活動をしていた。そんな折、町内の各家庭に眠る鯉のぼりを泳がせたい、という声がメンバーの中で上がる。そこで2代目会長だった島田さん(72)が

中心となり、昭和56年にワイヤー2本を山から対岸に渡し、100本の鯉のぼりを神流川上空に掲揚したのがきっかけ。それを見た地域住民の「きれいだね」の声の後押しされ、毎年ゴールデンウィーク期間に鯉のぼりが掲揚されるようになった。現在では鯉のぼり祭りが会の主要活動になっている。



〈やりがい・楽しみ〉

鯉のぼり祭りの季節になると、たくさんの親子連れが町を訪れる。「子どもたちの喜ぶ姿と笑い声が楽しみ。鯉のぼりのおかげで町は確実に活性化してきた。ずっとこの活動を続けていきたい」と話すのは現会長の大塚さん(51)。

また、島田さんは元建築作業員だったということで「ワイヤーを引くには川沿いの整備が必要。私は重機の操縦が好きだから、鯉のぼりの季節になるとワクワクしてくる。それと祭りにきてくれた人たちの笑顔を想像するのが、やりがいですね」と、語ってくれた。

基礎データ

☎0274-58-2111 神流町保健福祉課

☎0274-57-3305 神流町観光案内所

事業開始時期/昭和56年(発足:昭和46年)

主な活動/鯉のぼりの掲揚

人数・年齢/25名 20～50代
(OB12名 60～70代)

実施主体/かたる会